

今月の特集

【平成30年産酒造好適米の需給見通し】 （酒造好適米の需要量調査結果等に基づく推計）

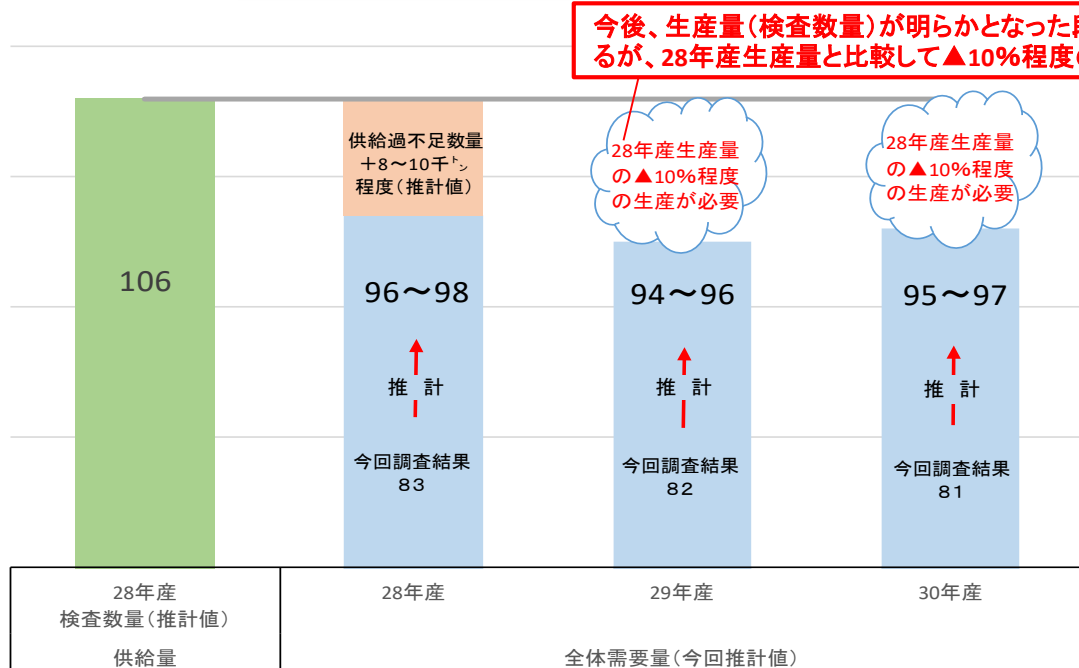
本年7月に実施した需要量調査、農産物検査数量及び関係者からの聞き取り等により推計した平成30年産酒造好適米の需給状況は以下のとおり。

【平成30年酒造好適米の需給状況】

- ・ 平成30年産需要量は、平成29年産とほぼ同水準の95～97千トン程度と見込まれる。
- ・ 平成29年産の供給過不足については、平成29年産の生産量（検査数量）がある程度明らかとなる来年1月以降に検証を行うこととするが、需給均衡のためには、平成28年産と比べて生産量を▲10%程度とすることが必要である。
- ・ 平成30年産については、平成29年産の供給過不足に応じて変動が生じると考えられるが、需要に応じた生産を行うためには、平成29年産と同様に平成28年産と比べて▲10%程度の生産とすることが必要と考えられる。

酒造好適米の全体需給状況見通し（推計）

（単位：千トン）



酒造好適米の需要に応じた生産に向けて

- ・ 酒造好適米については、近年、日本国内で製品当たりの米の使用量が多い特定名称酒が増加傾向にあるため、生産量は増加傾向にあります。
- ・ また、海外においても日本食ブーム等を背景に日本酒の輸出量は近年増加傾向にあります。
- ・ こうした中、平成30年産の作付けに当たっては、全体の需給見通しに加え、各産地でのこれまでの販売状況などを総合的に勘案の上、需要に応じた生産を行う必要があると考えられます。
- ・ また、よりの確な需要に応じた生産に資するためには、は種前に生産者と需要者が契約を行うことや複数年契約の取組の拡大を推進することが重要です。
- ・ したがって、今後とも日本酒の国内外での円滑な出荷・販売のためには、原料となる酒造好適米についても需給均衡化を図り、産地と実需者間で安定取引を図っていくことが重要です。

酒造好適米の需要量調査結果の概要

- ・ 昨年に引き続き、酒造好適米の需要量（見込）を把握するため、本年7月に需要量調査を実施。

酒造好適米の需要量調査結果

	28年度		29年度
	初回調査	追加調査	
調査期間	平成28年7月～9月	平成28年11月～12月	平成29年7月
調査対象メーカー数	1,500社	955社 ※ 初回調査で報告があった 酒造メーカー955社	1,442社
回答酒造メーカー数	955社	157社	811社
回答率	27年産数量ベースで 87～89%	変更が生じた場合のみ報告	28年産数量ベースで 83～85%

酒造好適米の需要量調査結果

平成27年産

本調査における平成27年産酒造好適米の需要量（実績）は、最近最も多い83千トンとなっている。これは、産地が生産拡大に取り組んだことや作柄も良かったことから、一部の酒造メーカーが当初の購入希望数量以上に購入したためと見られる。

平成28年産

本調査における平成28年産酒造好適米の需要量（実績見込）は、平成27年産と比較して約1千トン減少する82千トンとなっている。これは、平成28年産も引き続き需要量を上回る生産量となったため、平成27年産と同様に当初の購入希望数量以上に購入する動きもあったものの、平成27年産を購入希望数量以上に購入した分の在庫調整から平成27年産と比べ購入量を減らすケースがあったためとみられる。

平成29年

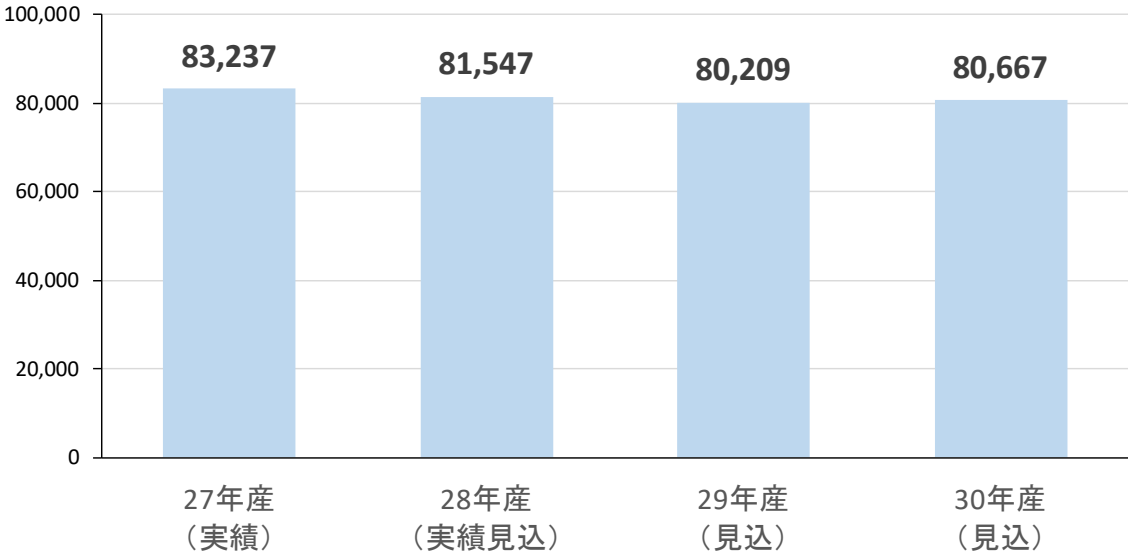
本調査における平成29年産酒造好適米の需要量（見込）は、平成28年産と比較して約2千トン減少する80千トンとなっている。これは、平成28年産において購入希望数量以上に購入した分の在庫調整によるものとみられる。

平成30年

本調査における平成30年産酒造好適米の需要量（見込）は、平成29年産から微増して81千トンとなっている。

（単位：トン）

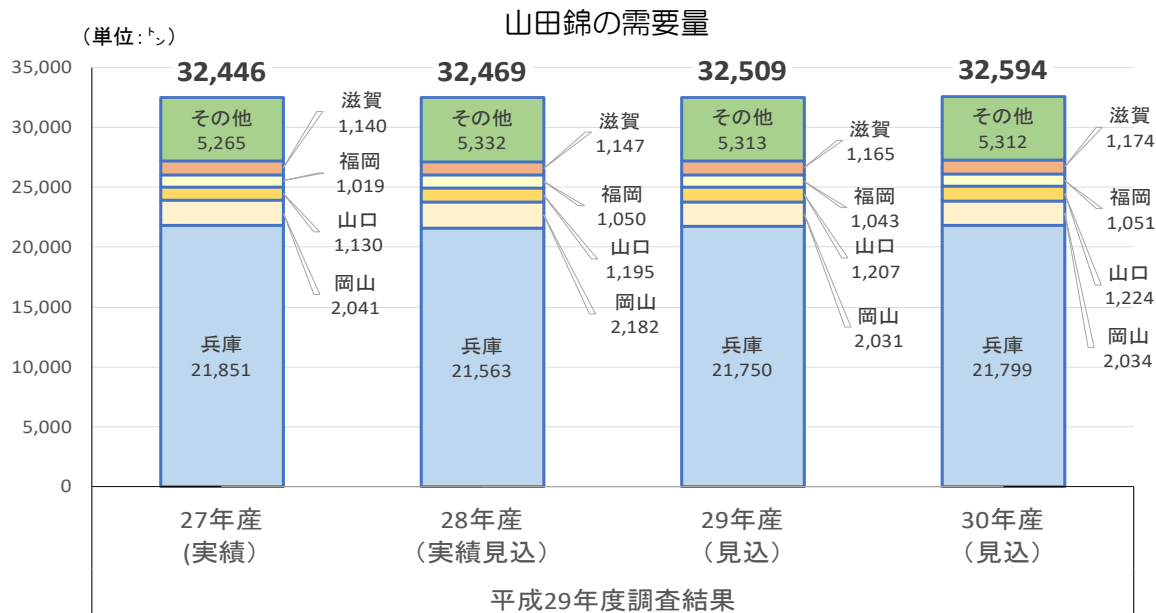
＜酒造好適米の需要量調査結果＞



主な酒造好適米の需要量調査結果(回答のあった酒造メーカーからの調査結果)

山田錦

- 今回の調査における山田錦の需要量は、概ね安定して推移している。
- 産地ごとの需要量は、平成28年産の需要量(実績見込)を基準として平成30年産(見込)を比較した場合、滋賀、兵庫、山口県産の需要は増加するが、岡山県産の需要は減少するという結果。

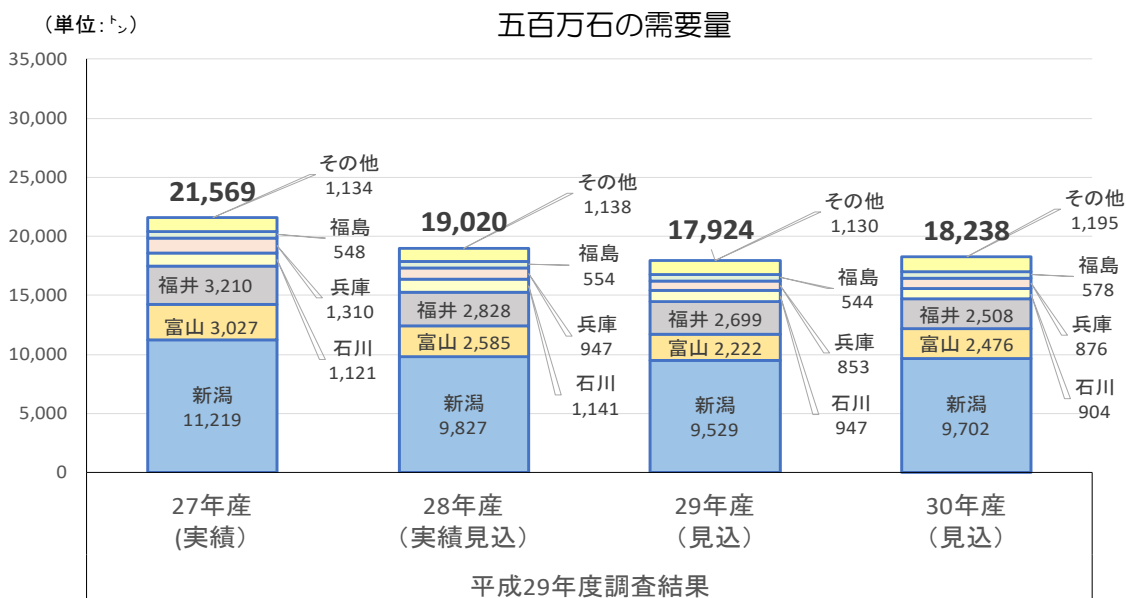


(参考) 山田錦の生産量(検査数量)

29,812 (26年産) 39,549 (27年産) 37,092 (28年産(速報値))

五百万石

- 今回の調査における五百万石の需要量は、やや減少傾向となっているが、平成30年産ではやや持ち直すと見込まれる。
- 産地ごとの需要量は、平成28年産の需要量(実績見込)を基準として平成30年産(見込)を比較した場合、福島県と主産地以外のその他の需要が増加するものの、新潟県をはじめとする主産地の需要は減少するという結果。



(参考) 五百万石の生産量(検査数量)

22,596 (26年産) 27,078 (27年産) 24,747 (28年産(速報値))

継続して需要量(見込を含む)が増加している上位30産地品種銘柄

(単位:ト)

産地品種銘柄			27年産からの 増加量(注)	30年産		29年産		28年産		27年産
				前年との差		前年との差		前年との差		
1	北海道	吟風	251	1,343	23	1,320	127	1,193	101	1,091
2	山形	雪女神	124	135	7	128	77	51	40	11
3	北海道	彗星	105	388	7	381	59	322	39	283
4	熊本	華錦	95	107	12	95	59	36	24	12
5	岩手	吟ぎんが	95	590	30	560	8	551	57	494
6	山口	山田錦	93	1,224	17	1,207	11	1,195	65	1,130
7	福島	華吹雪	78	122	2	120	39	81	37	44
8	兵庫	愛山	61	484	16	468	9	459	36	423
9	北海道	きたしずく	58	207	14	193	39	154	5	149
10	長野	金紋錦	56	288	3	285	29	256	25	232
11	高知	吟の夢	47	177	6	171	10	161	31	130
12	三重	神の穂	37	141	6	134	10	124	21	103
13	愛知	夢吟香	35	68	5	64	9	54	21	33
14	滋賀	山田錦	34	1,174	8	1,165	19	1,147	7	1,140
15	山梨	夢山水	34	51	12	39	17	22	5	17
16	佐賀	さがの華	26	68	1	67	10	57	15	42
17	福岡	吟のさと	26	104	2	102	21	81	3	78
18	島根	改良雄町	24	97	14	83	4	79	5	74
19	秋田	美郷錦	23	146	8	138	1	137	14	123
20	埼玉	さけ武蔵	22	126	13	113	4	109	5	105
21	滋賀	吟吹雪	21	282	0	281	15	266	6	260
22	島根	佐香錦	18	85	12	73	2	71	4	67
23	鳥取	強力	17	109	3	105	3	102	11	91
24	山形	羽州誉	14	42	0	42	8	33	6	28
25	山梨	玉栄	13	39	5	34	6	29	3	26
26	新潟	一本ノ	12	74	1	73	4	69	7	62
27	新潟	越神楽	11	72	2	70	9	61	0	61
28	茨城	五百万石	10	41	3	38	5	33	2	32
29	兵庫	山田穂	9	49	3	46	2	44	4	39
30	兵庫	兵庫錦	9	19	1	19	4	15	5	10

注)「27年産からの増加量」は、各年の前年との差の合計数量である。

以上のほか、詳細な情報は、以下URLにより「日本酒をめぐる状況及び酒造好適米の需要量調査結果」を参照ください。

URL : http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html